

内閣府青年国際交流事業報告書 2022

令和4年度

日本・韓国青年親善交流事業

「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

日本・中国青年親善交流事業

「日中代表ユースフォーラム」



内閣府

Cabinet Office, Government of Japan

# 序

内閣府では、日本と諸外国の青年の交流により、青年相互の友好と理解を促進するとともに、青年の国際的視野を広げ、次代を担うにふさわしい国際性を備えた健全な青年を育成することを目的として各種の青年国際交流事業を実施してまいりました。

「日本・中国青年親善交流事業」は、昭和53年の日中平和友好条約の締結を記念し、日本と中国両国政府が共同して、昭和54年度から実施しているものであり、また、「日本・韓国青年親善交流事業」は、昭和59年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、昭和60年の日韓国交正常化20周年を機に、日本と韓国の両国政府による共同事業として昭和62年度から実施しているものです。両事業は、それぞれ日本と中国、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による社会貢献活動に寄与することを目的としています。

本事業は元々、日本の青年を中国及び韓国に派遣し、中国及び韓国の青年を日本に招へいするものですが、今年度はコロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、令和2年度、令和3年度に引き続き、オンラインで開催することとしました。

本事業のプログラムでは、これからの新しい時代にリーダーシップを発揮できる青年の育成を図るため、日本と中国及び日本と韓国の青年によるディスカッションを中心としたオンライン交流をそれぞれ実施しました。

さらに、事業報告会を両事業共同で実施し、オンライン交流で得られた成果を報告するとともに、これまでの事業参加青年による経験や学びといった自身の成長を紹介する機会も設け、より多くの方々に両事業の魅力をお伝えするための広報を行いました。

こうした取組を通じて、参加者の皆様が交流を深め、今後の活動につながる学びを得て、将来にわたりますます活躍されるとともに、広く青少年の方々が本事業を含む国際交流活動への関心を高めていただくことを願っています。

本報告書は、今回のオンライン交流で行ったディスカッション等の様々な活動について記録したものです。この報告書を通じ、事業の意義を御理解いただくとともに、今後一層の御支援をいただければ幸いです。

最後に、本事業の実施にあたり、御協力いただいた関係各位に、心から御礼申し上げます。

令和5年3月

内閣府青年国際交流担当室長

黒瀬 敏文

# 第1章

日本・韓国青年親善交流事業

「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

## 事業概要

### <目的>

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和59年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、昭和60年の日韓外交正常化20周年を機に、両国政府が共同して実施している。

本事業は、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和4年度は、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとした。

### <実施概要>

本事業はオンラインにて実施した。

(1) ディスカッション共通テーマ及びサブテーマ  
「日本と韓国両国の未来を担う青年ができること」  
(サブテーマ)

- ◆高齢化社会
- ◆少子化問題
- ◆デジタル社会

(2) 日本参加青年の参加資格（主なもの）

- ◆日本の国籍を有すること。
- ◆令和4年4月1日現在、概ね18歳以上30歳以下の者であること。
- ◆日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- ◆韓国に対して関心と理解があること。
- ◆オンライン事前研修、日本参加青年と韓国参加青年とのオンライン交流、オンラインによる事後研修、オンラインによる事業報告会の全日程に参加できる者であること。
- ◆国際協力等に高い参画意欲を持ち、事業終了後もその経験をいかして国際協力活動、国際的な社会貢献活動等を活発に行うことが期待できる者であること。

(3) 参加青年人数

日本参加青年 11名（1名辞退）

韓国参加青年 12名

（韓国参加青年は韓国側が選考）

(4) 日程

#### ◆事前研修

⇒1日目：令和4年10月15日（土）

⇒2日目：令和4年10月22日（土）

※両日とも13:00～17:00で実施

#### ◆韓国参加青年とのオンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

⇒1日目：令和4年11月12日（土）

⇒2日目：令和4年11月13日（日）

⇒3日目：令和4年11月26日（土）

※全日程において、13:00～17:00で実施

#### ◆事後研修

⇒令和4年12月3日（土）13:00～17:00

#### ◆事業報告会

⇒令和5年2月4日（土）13:00～16:00

※日本・中国青年親善交流事業と合同で実施

#### ※プログラム実施

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

## 事業日程

### <事前研修1日目>

令和4年10月15日(土)				
時間	時間枠	内容		
13:00 ~ 13:10	0:10	オープニング		
13:10 ~ 13:20	0:10	本プログラム参加にあたっての心構え等について		
13:20 ~ 13:50	0:30	アイスブレイキング		
13:50 ~ 14:50	1:00	国際交流をはじめるとにあたって		
14:50 ~ 15:00	0:10	休憩		
15:00 ~ 16:20	1:20	韓国事情に関する講義		
16:20 ~ 16:30	0:10	係決め		
16:30 ~ 16:50	0:20	クロージング		

### <事前研修2日目>

令和4年10月22日(土)				
時間	時間枠	内容		
13:00 ~ 13:10	0:10	オープニング		
13:10 ~ 13:30	0:20	係の時間①		
13:30 ~ 14:30	1:00	ディスカッション基礎講座 ～日韓交流を始めるにあたって～		
14:30 ~ 14:40	0:10	休憩		
14:40 ~ 16:00	1:20	ディスカッション実演		
16:00 ~ 16:10	0:10	休憩		
16:10 ~ 16:35	0:25	係の時間②		
16:35 ~ 16:45	0:10	事後活動について		
16:45 ~ 17:00	0:15	クロージング		

## <韓国参加青年とのオンライン交流

### 「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 1日目>

令和4年11月12日(土)		
時 間	時間枠	内 容
13:00 ~ 13:15	0:20	開会式 出席者紹介 代表青年挨拶 韓国参加青年代表 日本参加青年代表 記念撮影
13:15 ~ 13:25	0:10	オープニング
13:25 ~ 13:55	0:30	参加青年自己紹介
13:55 ~ 14:05	0:10	休憩
14:05 ~ 14:55	0:50	アイスブレーキング（人生の3大ニュース発表）
14:55 ~ 15:05	0:10	休憩
15:05 ~ 16:10	1:05	ディスカッション① 高齢化社会 1 高齢化社会 2 少子化問題 1 少子化問題 2 デジタル社会 1 デジタル社会 2
16:10 ~ 16:20	0:10	休憩
16:20 ~ 16:50	0:30	韓国参加青年による文化紹介
16:50 ~ 17:00	0:10	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流

「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 2日目>

令和4年11月13日(日)				
時 間		時間枠	内 容	
13:00	～	13:10	0:10	オープニング
13:10	～	13:30	0:20	チェックイン
13:30	～	14:10	0:40	ディスカッション② 高齢化社会 1 高齢化社会 2 少子化問題 1 少子化問題 2 デジタル社会 1 デジタル社会 2
14:10	～	14:20	0:10	休憩
14:20	～	15:00	0:40	ディスカッション③ 高齢化社会 1 高齢化社会 2 少子化問題 1 少子化問題 2 デジタル社会 1 デジタル社会 2
15:00	～	15:10	0:10	休憩
15:10	～	15:40	0:30	日本参加青年による文化紹介
15:40	～	15:50	0:10	休憩
15:50	～	16:45	0:55	ホームグループミッション達成について
16:45	～	17:00	0:15	クロージング

<韓国参加青年とのオンライン交流

「日韓青年親善交流のつどいオンライン」 3日目>

令和4年11月26日(土)			
時 間	時間枠	内 容	
13:00 ~ 13:05	0:05	オープニング	
13:05 ~ 13:15	0:10	チェックイン	
13:15 ~ 14:45	1:30	ディスカッションの成果発表及び質疑応答 高齢化社会 1 高齢化社会 2 少子化問題 1 少子化問題 2 デジタル社会 1 デジタル社会 2	
14:45 ~ 14:55	0:10	講評 韓国政府女性家族部青少年活動振興課 内閣府青年国際交流担当室	
14:55 ~ 15:05	0:10	休憩	
15:05 ~ 15:50	0:45	ホームグループミッションの成果発表	
15:50 ~ 16:00	0:10	休憩	
16:00 ~ 16:50	0:50	振り返り	
16:50 ~ 17:00	0:10	閉会式 参加青年による手紙及びギフト紹介 韓国参加青年 日本参加青年	

## <事後研修>

令和4年12月3日(土)				
時 間			時間枠	内 容
13:00	～	13:05	0:05	オープニング
13:05	～	13:10	0:05	内閣府挨拶
13:10	～	13:20	0:10	チェックイン
13:20	～	14:20	1:00	振り返りワーク①
14:20	～	14:30	0:10	休憩
14:30	～	15:10	0:40	報告会について
15:10	～	15:40	0:30	事後活動について
15:40	～	15:45	0:05	休憩
15:45	～	16:30	0:45	振り返りワーク②
16:30	～	16:35	0:05	今後の提出物について
16:35	～	16:55	0:20	チェックアウト
16:55	～	17:00	0:05	クロージング

## <令和4年度日本・中国青年親善交流事業及び 日本・韓国青年親善交流事業 事業報告会>

令和5年2月4日(土)				
時 間			時間枠	内 容
13:00	～	13:10	0:10	オープニング アイスブレイキング
13:10	～	13:55	0:45	令和4年度日本・中国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
13:55	～	14:00	0:05	休憩
14:00	～	14:45	0:45	令和4年度日本・韓国青年親善交流事業 日本参加青年による報告
14:45	～	14:55	0:10	休憩
14:55	～	15:20	0:25	パネルディスカッション
15:20	～	15:40	0:20	内閣府青年国際交流事業概要説明
15:40	～	15:45	0:05	休憩
15:45	～	16:00	0:15	相談会・質疑応答

## 事業評価アンケート

### I 趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和62年度に開始された事業である。

本事業は、日本と韓国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と韓国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本参加青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにより日本参加青年と韓国参加青年との交流プログラム「日本・韓国青年親善交流事業（オンライン）」を実施することとし、日韓参加青年同士のグループ別ディスカッション、文化交流、成果発表等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

### II 評価結果

#### 1. 事業目的の達成度

##### ①プログラムの満足度

「韓国青年との交流会（日韓青年親善交流のつどいオンライン）をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価の4（良かった）以上を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「韓国青年と初めて会話をすることができた。ディスカッショングループでは、日韓が抱えるさまざまな問題に関して考えることができ、

新しい課題の発見をすることができた。」「韓国青年も積極的に発言してくれ、お互いに言語の壁はあるけれど、意思疎通をしたいという気持ちが通っていて、友達になることができた。」「今後も継続する関係性を韓国青年と築くことができ、またオンライン交流のできることを最大限準備してくださり良い思い出を作ることができた。」などのコメントがあった。

このことからオンライン上であっても、両国青年が交流を深め、友好関係を築けるプログラムが作成できることがわかった。

##### ②韓国青年等との相互理解と友好

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々の相互理解が深まったと思いますか」及び「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

相互理解に関して日本参加青年からは、「ディスカッション、ホームミッションを通して何回も話し合ったり、共有したりすることで国境を越えての絆が生まれたと感じた。」「社会問題を韓国青年と共に考える中で、韓国社会の現状をより深く理解する機会になった。」などのコメントがあった。

友好に関しては、「今でも連絡を取る程、仲良くなることができた。隣国ではなく、友達の国という新しい感覚も持つことができた。」「それぞれの国の文化を尊重して交流することによって、韓国を思い浮かべたときに交流した人の顔を思い浮かべてより自分事として捉えるようになった。」などのコメントがあった。

このことからディスカッションやホームグループミッション等を通して、日本と韓国の参加青年がお互いの国が抱えている社会問題から身近な日常について多岐に渡るテーマで話す機会が持てたことがわかる。その結果、韓国青年に対する相互理解及び友好が深まった一因となったと考察できる。

### ③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価の4(良かった)以上を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「事前研修から事後研修にかけて、自分の参加目的が達成されたかや、どのようなスキルが成長したかなど、自分自身のことについて振り返ることができた。」「事前研修では、交流会を通して意識したいことを文字化させ、自分で意識的に話すことができた。事後研修では、自分が二週間の交流会を通して何を学んだのかをアウトプットすることができた。」「事前研修で自分がこの事業に参加する目的や目標を定めることができ、事業に対する向き合い方がよりはっきりとした。」などのコメントがあった。

このことから、事前研修では参加青年が本事業で達成したいことや挑戦したいことなどを明確にし、韓国青年との交流時に実践、事後研修で活動を振り返るといった一連の体系が高い評価を得ていることがわかった。参加青年が本事業に能動的に参加する一因にもなっており、参加青年の自己成長・実現を促す要因となっていると思われる。

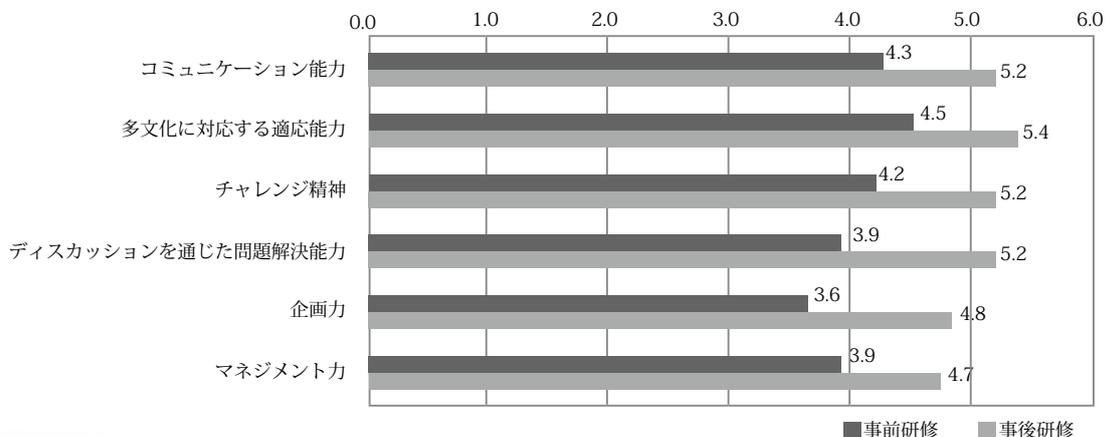
## 2. 日本参加青年の成長

### ①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階(6 = 十分備えている、5 = 備えている、4 = ある程度備えている、3 = あまり備えていない、2 = 備えていない、1 = 全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」:  
4.3 から5.2 となり、0.9 ポイントの増。
- ・「多文化に対応する適応能力」:  
4.5 から5.4 となり、0.9 ポイントの増。
- ・「チャレンジ精神」:  
4.2 から5.2 となり、1.0 ポイントの増。
- ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」:  
3.9 から5.2 となり、1.3 ポイントの増。
- ・「企画力」:  
3.6 から4.8 となり、1.2 ポイントの増。
- ・「マネジメント力」:  
3.9 から4.7 となり、0.8 ポイントの増。  
(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

事業実施前後の能力向上に関する  
自己評価の増減 (ポイント)



全ての項目において、事業参加後に能力の向上が確認できた。なかでも、「ディスカッションを通じた問題解決能力」が最も伸び幅が大きかった。本事業を通して、日本と韓国両国の未来を担う青年ができることをテーマに韓国参加青年と実際にディスカッションを行ったことによって、ディスカッションを行う上で必要なスキルや社会問題を解決するためのアプローチ方法について学べたことが大きな要因だと考えられる。

その他の項目も軒並み上昇していることから、本事業への参加が参加青年の個人能力を伸ばすための一助となっていることがわかる。

## ②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階（6＝非常にそう思う、5＝そう思う、4＝ややそう思う、3＝あまりそう思わない、2＝そう思わない、1＝全くそう思わない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

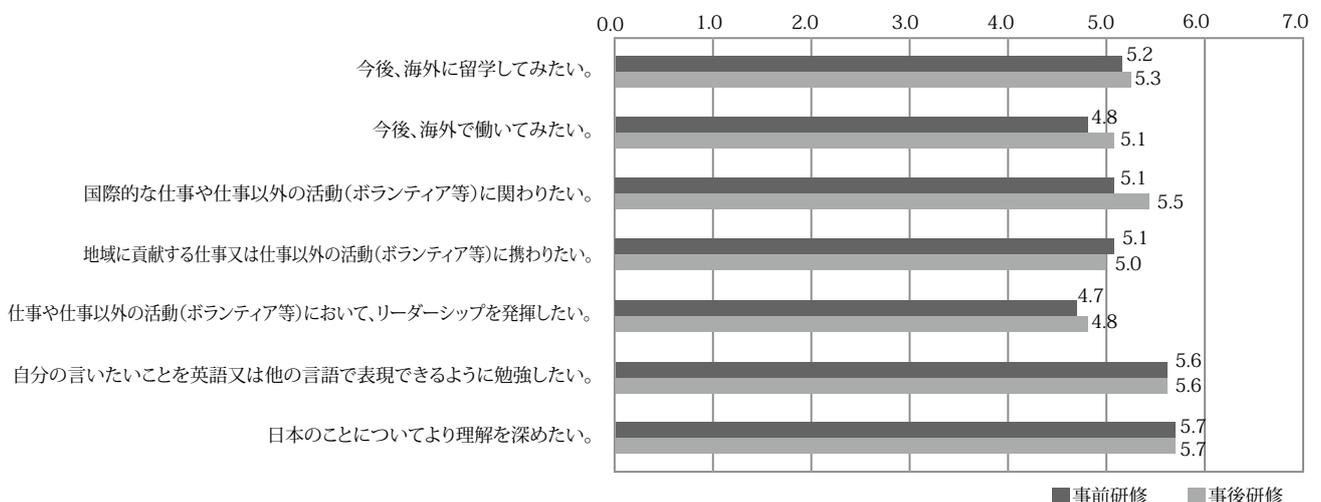
- ・「今後、海外に留学してみたい。」：  
5.2 から5.3 となり、0.1 ポイントの増。
- ・「今後、海外で働いてみたい。」：  
4.8 から5.1 となり、0.3 ポイントの増。

- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：  
5.1 から5.5 となり、0.4 ポイント増。
  - ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」：  
5.1 から5.0 となり、0.1 ポイントの減。
  - ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」：  
4.7 から4.8 となり、0.1 ポイントの増。
  - ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」：  
5.6 から5.6 となり、増減なし。
  - ・「日本のことについてより理解を深めたい。」：  
5.7 から5.7 となり、増減なし。
- （ポイント数については、小数第二位を四捨五入）

事業参加前から参加青年達の意識が高く、個人意識に大幅な変化は見られないが、「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」が比較的大きな上昇を見せた。

事業に参加する上で参加青年達はそれぞれ役割分担をし、多くの青年がリーダーシップを発揮することができ、その経験を今後も活かしていきたいと考えるようになったと考察できる。

事業実施前後の意識変化に関する  
自己評価の増減（ポイント）



### III 総括評価

最後に、アンケートから日本参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「事業全体をどのように評価しますか」という問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価の4（良かった）以上の評価を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「これまでも交流事業に参加したことはあったが、日本や韓国の社会情勢について議論できることと、日本の文化や魅力を紹介できることが両方できるのはこの韓国事業でしかできない経験だった。」「今後も交流を続けたい韓国青年の方々と出会うことができた。また、韓国青年と交流する上で韓国の理解だけではなく、日本の文化の理解を進めることができた。」「日韓の両方についてより理解を深められたとともに、これからずっと続く日韓の友達を作ることができた。今回の交流で終わることなく報告会やIYEOなどの活動もあり、新しい居場所を得ることができ、かつ自身の今後の成長の場になると感じている。」などのコメントがあった。

これらのことから、本事業は明確にディスカッションのテーマが設定されており、該当するテーマについての理解を深められたことが、事業全体の満足度を高めたことにつながったと考察できる。

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲などを持ちましたか」という問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（ある程度意欲を持った）以上の評価を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「日韓の問題について考えたことをきっかけに、もっと様々な問題解決に向けて考えたいと思うようになった。」「デジタル社会についてディスカッションする中で、高齢者がデジタル化の流れに追いつけてない現状を知り、今後スマートフォンに関わる仕事をするので高齢者の方々もスマートフォンを便利に使いこなせるようになっていける社会にしたいと思うようになった。」というコメントがあった。一方で、「韓国青年との交流はとても有意義な時間であったが、社会貢献活動に参加する時間やゆとりというものが今の自分にはない。」というコメントもあった。

これらのことから、本事業で両国の現状や社会問題について学んだことをきっかけに、社会貢献活動へ関心を高めた青年が多いことがわかった。一方、多忙や心身の余裕という観点から、社会貢献活動をまだ身近なものとして捉えていない青年もいるが、決して社会貢献に対して否定的ではないことが伺える。

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年全員が5段階評価の4（役立つと思う）以上の評価を付け、非常に高い評価であった。

日本参加青年からは、「多くの人と関わることで、目標としていた多様な人と対話する力を身に付けるということが達成することができたと感じており、この力は将来とても役立つと考える。」「自分自身を大きく成長させることが出来るほか、人脈も広がり、自分の考えや価値観も広げることができる。」「異なるバックグラウンドを持つ人と話し合っ て意見をまとめたり、新たな考えを創り出したりする過程は将来どの仕事においても活かせると思った。」などのコメントがあった。

これらのことから、参加青年同士だけでなく、ファシリテーターや運営委員、講師等、異なる立場や経験を持つ人と交流する機会を持てたことに満足感を覚えている参加青年が多いことがわかった。その結果、本事業を通じて考え方や価値観を広げられたと感じ、将来に役立つと考える結果になったのだろうと考察できる。

以上のように韓国事情に関する理解が深まったことや、韓国参加青年との交流に高い満足度を感じている趣旨のコメントが多く、本事業の目的である「日本と韓国の青年相互の友好と理解の促進」は、達成できたと考えられる。今年度も今後の日韓関係発展に寄与することが期待できる青年を多く輩出できたことから、本事業の目的を十分に果たすことができたことと評価できよう。

## 第2章

日本・中国青年親善交流事業

「日中代表ユースフォーラム」

## 事業概要

### <目的>

日本・中国青年親善交流事業は、昭和53年の日中平和友好条約の締結を記念し、日本及び中華人民共和国（以下「中国」という。）の両国青年の相互の友好と理解の促進を図ることを目的として、両国政府が共同して実施している。

本事業は、日本と中国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

令和4年度は、コロナ禍を巡る状況がいまだに予断を許さないことから、昨年度に引き続き、オンラインで開催することとした。

### <実施概要>

本事業はオンラインにて実施した。

#### (1) ディスカッションテーマ及びサブテーマ

「日中国交正常化50周年」

(サブテーマ)

- ◆青年にやさしい都市づくり
- ◆ソフトパワー（文化）
- ◆キャリア（就業創業）
- ◆環境（気候変動対策）
- ◆教育

#### (2) 日本参加青年の参加資格（主なもの）

- ◆日本の国籍を有すること。
- ◆令和4年4月1日現在、概ね18歳以上30歳以下の者であること。
- ◆日本の社会、文化等について相当程度の知識を有すること。
- ◆中国に対して関心と理解があること。
- ◆オンライン事前研修、日本参加青年と中国参加青年とのオンライン交流、オンラインによる事後研修、オンラインによる事業報告会の全日程に参加できる者であること。
- ◆国際協力等に高い参画意欲を持ち、事業終了後もその経験をいかして国際協力活動、国際的な社会貢献活動等を活発に行うことが期待できる者であること。

#### (3) 参加青年人数

日本参加青年 25名

中国参加青年 25名

（中国参加青年は中国側が選考）

#### (4) 日程

##### ◆事前研修

⇒1日目：令和4年10月2日（日）

⇒2日目：令和4年10月9日（日）

※両日とも13:00～17:00で実施

##### ◆中国参加青年とのオンライン交流「日中代表ユースフォーラム」

⇒令和4年10月30日（日）

※日本時間11:00～18:00で実施

##### ◆事後研修

⇒令和4年11月6日（日）13:00～17:00

##### ◆事業報告会

⇒令和5年2月4日（土）13:00～16:00

※日本・韓国青年親善交流事業と合同で実施

#### ※プログラム実施

内閣府との契約により、一般財団法人青少年国際交流推進センターが実施に当たった。

## 事業日程

### <事前研修1日目>

令和4年10月2日(日)				
時間	時間枠	内容		
13:00 ~ 13:05	0:05	オープニング		
13:05 ~ 13:10	0:05	ファシリテーター自己紹介		
13:10 ~ 13:40	0:30	コミュニティビルディング①		
13:40 ~ 15:00	1:20	事業に関する趣旨・理解を深めるための講座		
15:00 ~ 15:05	0:05	休憩		
15:05 ~ 16:35	1:30	中国の社会事情に関する講座		
16:35 ~ 16:55	0:20	コミュニティビルディング②		
16:55 ~ 17:00	0:05	次回研修に向けての説明 クロージング		

### <事前研修2日目>

令和4年10月9日(日)				
時間	時間枠	内容		
13:00 ~ 13:10	0:10	課題取り組み状況共有		
13:10 ~ 14:40	1:30	意見交換テーマ基礎講座		
14:40 ~ 14:45	0:05	休憩		
14:45 ~ 16:15	1:30	意見交換テーマ実践講座		
16:15 ~ 16:45	0:30	今後に向けて		
16:45 ~ 16:55	0:10	事後活動について		
16:55 ~ 17:00	0:05	研修の振り返り		

<中国参加青年とのオンライン交流「日中代表ユースフォーラム」>

令和4年10月30日(日)			
時 間	時間枠	内 容	
11:00 ~ 11:05	0:05	会議の背景、主な参加者を紹介	
11:05 ~ 11:10	0:05	中華全国青年連合会副主席による録画メッセージ	
11:10 ~ 11:15	0:05	内閣府青年国際交流担当室長による録画メッセージ	
11:15 ~ 11:45	0:30	基調講演 テーマ:「中日関係と50年の回顧と展望 ～50年間の交流と協力～」	
11:45 ~ 12:00	0:15	質疑応答	
12:00 ~ 14:30	2:30	昼休憩	
14:30 ~ 17:00	2:30	テーマ別意見交換 ①青年にやさしい都市づくり ②ソフトパワー（文化） ③キャリア（就業創業） ④環境（気候変動対策） ⑤教育	
17:00 ~ 18:00	1:00	成果発表	

<事後研修>

令和4年11月6日(日)				
時 間	時間枠	内 容		
13:00 ~ 13:05	0:05	オープニング		
13:05 ~ 14:15	1:10	振り返りワーク（前半）		
14:15 ~ 14:20	0:05	休憩		
14:20 ~ 14:50	0:30	振り返りワーク（後半）		
14:50 ~ 15:10	0:20	報告会について		
15:10 ~ 15:50	0:40	報告会に向けたグループワーク		
15:50 ~ 15:55	0:05	休憩		
15:55 ~ 16:40	0:45	事後活動について		
16:40 ~ 16:50	0:10	事後活動に向けたグループワーク		
16:50 ~ 17:00	0:10	クロージング		

<令和4年度日本・中国青年親善交流事業及び  
日本・韓国青年親善交流事業 報告会>

令和5年2月4日(土)				
時 間	時間枠	内 容		
13:00 ~ 13:10	0:10	オープニング アイスブレイキング		
13:10 ~ 13:55	0:45	令和4年度日本・中国青年親善交流事業 日本参加青年による報告		
13:55 ~ 14:00	0:05	休憩		
14:00 ~ 14:45	0:45	令和4年度日本・韓国青年親善交流事業 日本参加青年による報告		
14:45 ~ 14:55	0:10	休憩		
14:55 ~ 15:20	0:25	パネルディスカッション		
15:20 ~ 15:40	0:20	内閣府青年国際交流事業概要説明		
15:40 ~ 15:45	0:05	休憩		
15:45 ~ 16:00	0:15	相談会・質疑応答		

## 事業評価アンケート

### I 趣旨

日本・中国青年親善交流事業は、昭和54年度に開始された事業である。

本事業は、日本と中国の青年相互の友好と理解の促進を図ることを目的とし、日本政府と中国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の友好と理解を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神のかん養と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインにより日本青年と中国青年との交流プログラム「日本・中国青年親善交流事業（オンライン）」を実施することとし、基調講演、日中参加青年同士のグループ別ディスカッション、成果発表等を行った。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、事前研修及び事後研修時に、能力向上等に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本参加青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

### II 評価結果

#### 1. 事業目的の達成度

##### ①プログラムの満足度

「中国青年との意見交換会（日中代表コースフォーラム）をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「日本と中国のソフトパワーには、共通点と相違点があることを学べた。中国青年は、日本青年よりも自国のソフトパワーに関心を持っ

ており、誇りに思っていると感じた。私も日本のソフトパワーについて理解を深め、誇れるようになりたいと思う。」「中国の方に日本の適切な情報を伝えるために私たちも今まで以上に日本のことを詳しく調べ、自国に対する理解をより一層深めることができた。」「中国で実際に活躍されている方々から、貴重な話を聞くことができた。相手を凄と思うだけでなく、日本の良さを伝えながらこれからの歩みについて考えるきっかけになったと思う。」などのコメントがあった。

このことから、中国参加青年との意見交換を通して、中国だけでなく日本についても理解を深めるきっかけとなり、全体的に満足のいく内容になったと考察できる。

##### ②中国青年等との相互理解と友好

「この事業を通じて、あなたと中国の人々の相互理解が深まったと思いますか」及び「この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（深まったと思う）を付け、高い評価であった。

相互理解に関して日本参加青年からは、「相互理解が深まり、文化についてお互いの知見が深まった。しかし同時に、中国全体、日本全体を知るにはあまりに時間やインプット量が足りなかった。つまりこの事業は『これから』の入り口でしかないということを知った。」「事前研修では面子文化が大事と教わったので交流は不安だったが、実際に話してみるとこちら側の意図もくみ取ってくださり気を使いすぎずに交流ができた。ステレオタイプに当てはめず、実際に話してみることの大切さを実感した。」などのコメントがあった。

友好に関して日本参加青年からは、「中国青年が自分たちの発表内容にすごく興味を持ってくれた。一緒に議論の結論を出したことによって仲が深まった。」「中国の参加者が敬意と友好の気持ちをもって話してくれていることがよく伝わってきた。」などのコメントがあった。

一方で「相互理解や友好を深めるための時間が足りなかった。」という趣旨のコメントもあった。

このことから、中国に対して持っていたイメージが実際に中国青年と交流したことによって変化し、中国に対しての理解及び友好が深まったと感じていることが伺える。しかし、相互理解・友好を深めるには時間が足

りないという声もあり、課題もあることがわかった。

### ③事前研修及び事後研修の満足度

「事前研修及び事後研修をどのように評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価の4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「初めはなんとなく参加していたが、グループディスカッションの場数を踏む事で相互交流だけでなく、限られた時間内でのメンバーの発言共有と報告のための管理を行う能力が身についた。」「中国の人々とどのように接するべきかを学ぶことができ、実際に当日役立てることができた。事後研修では今後どのようにこの経験を活かすかを考えさせられた。」「運営メンバーの話や日中交流事業の歴史、意見交換会における日本代表青年としての心構えなどから新しい学びを多く得られた。」などのコメントがあった。

このことから、中国参加青年との交流のための準備に留まらず、マネジメント能力や本事業に日本代表として参加する意義について学べたことで、今後の活動にも活かせる知識や考え方を身に付けられたと考察できる。

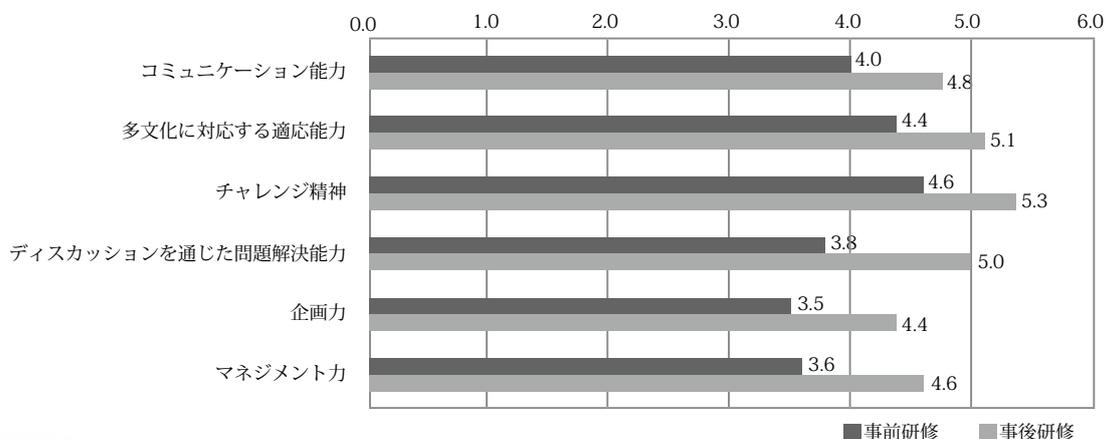
## 2. 日本参加青年の成長

### ①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での能力の成長の変化について6段階（6＝十分備えている、5＝備えている、4＝ある程度備えている、3＝あまり備えていない、2＝備えていない、1＝全く備えていない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- ・「コミュニケーション能力」：  
4.0 から4.8 となり、0.8 ポイントの増。
- ・「多文化に対応する適応能力」：  
4.4 から5.1 となり、0.7 ポイントの増。
- ・「チャレンジ精神」：  
4.6 から5.3 となり、0.7 ポイントの増。
- ・「ディスカッションを通じた問題解決能力」：  
3.8 から5.0 となり、1.2 ポイントの増。
- ・「企画力」：  
3.5 から4.4 となり、0.9 ポイントの増。
- ・「マネジメント力」：  
3.6 から4.6 となり、1.0 ポイントの増。  
(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

事業実施前後の能力向上に関する  
自己評価の増減（ポイント）



全ての項目において、事業参加後に能力の向上が確認できた。なかでも、「ディスカッションを通じた問題解決能力」及び「マネジメント力」に大きな上昇が見られた。

これらの項目に共通することとして、実務経験者や大学院生など専門知識を持った中国参加青年と短時間でのディスカッションを行うにあたり、効率的かつ対等にディスカッションを行えるよう入念な準備をしたことが大きな要因であったと考察できる。専門性の高い中国参加青年と対等に意見交換を行うことは大きな経験となったことがわかる。

## ②個人の意識の変化

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と事後研修時での意識の変化について6段階（6＝非常にそう思う、5＝そう思う、4＝ややそう思う、3＝あまりそう思わない、2＝そう思わない、1＝全くそう思わない）による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

・「今後、海外に留学してみたい。」：

5.5 から5.5 となり、増減なし。

・「今後、海外で働いてみたい。」：

5.0 から5.2 となり、0.2 ポイントの増。

・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：

5.3 から5.4 となり、0.1 ポイントの増。

・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動（ボランティア等）に携わりたい。」：

5.0 から5.3 となり、0.3 ポイントの増。

・「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」：

4.4 から5.0 となり、0.6 ポイントの増。

・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」：

5.8 から5.9 となり、0.1 ポイントの増。

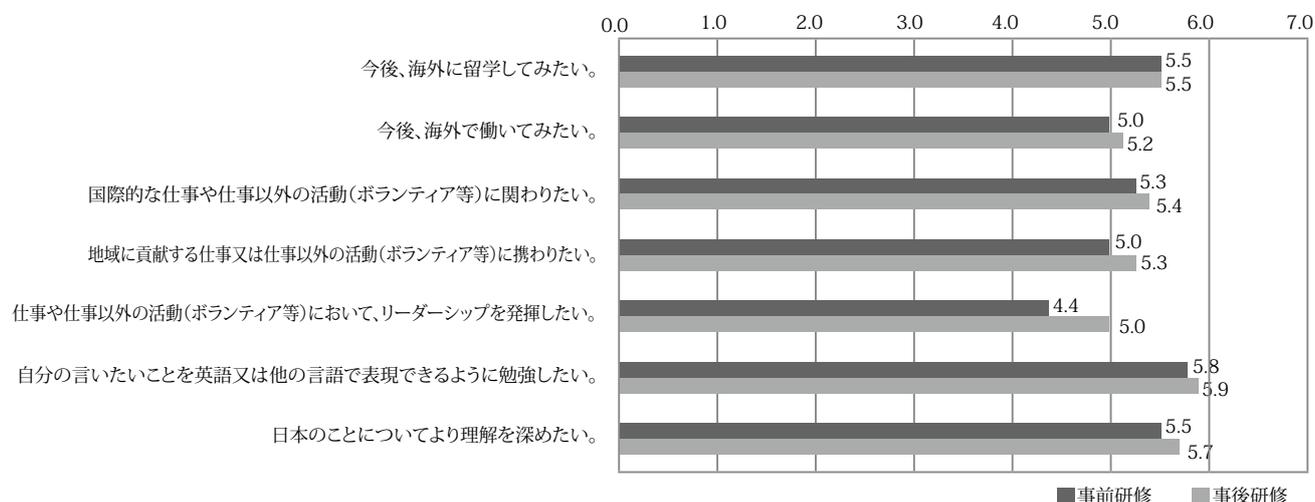
・「日本のことについてより理解を深めたい。」：

5.5 から5.7 となり、0.2 ポイントの増。

（ポイント数については、小数第二位を四捨五入）

日本参加青年は事業参加以前から、設問内容に対しての意識が高く、本事業を経験したことによる大幅な意識の変化は見られなかった。しかし、大幅にポイントが上昇している項目が多いことから、本事業で参加青年だけでなく、ファシリテーターや運営委員、講師等、様々な立場の人と交流をしたことによって、今後の活動へのモチベーションが高まったのではないかと考察できる。

事業実施前後の意識変化に関する  
自己評価の増減（ポイント）



### III 総括評価

最後に、アンケートから日本参加青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

「事業全体をどのように総合評価しますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価中4（良かった）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「事業の中で中国に対する理解を深めたり、普段関わることができない多くの青年と意見を交わしたりすることができ、貴重な体験ができた。」「小グループのリーダーになった経験から、リーダーとしてのマネジメント力を得ることができ自信がついた。他のプロジェクトや企画に参加する際にもリーダーをやってみたいと思えるようになった。国の代表として中国青年とディスカッションするという貴重な機会を得ることができた。」「中国青年と交流を行い、日本が何に力を入れるべきなのか現実的に考えることができた。個人的には意識の高い多くの青年と会うことによって、成長意欲が高まった。」などのコメントがあった。

このことから中国参加青年との交流に限らず、参加青年同士の交流を通して、お互いに切磋琢磨できる環境に身を置いたことで、更なる自己成長を望むようになったことが伺える。

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲などを持ちましたか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価中4（ある程度意欲を持った）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「もともと意欲はあったが、中国の方の取組みを聞き、自分たちでもやってみようと思った。」「夢を叶えている人やそのために努力している人の話を聞くと、自分も目標を高く持って行動したいと思った。誰かのための活動は一番のモチベーションになると思う。」「中国参加青年の積極的に活動する話を聞き、興味を持った。社会貢献活動として具体的にどのような参加の仕方ができるのかを考えていきたい。」などのコメントがあった。

これらのことから、実際に社会貢献活動を行っている青年の話を聞いたことにより、社会貢献活動への興味・関心が高まり、実際に活動したいという意欲の高まりに繋がったと考えられる。

「この事業は、将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の多くが5段階評価中4

（役立つと思う）以上を付け、高い評価であった。

日本参加青年からは、「普通なら出会うことができない仲間と出会うことができ、自身の対人スキルなどの能力が向上した。今後日中交流をする際に交流会での経験は役に立つと思う。」「先々に中国の人と仕事などで一緒になった時に気を付けること、文化、社会など基礎的な部分は今回の活動で把握できた。」「今回の交流会は自分が将来就きたいと考えている仕事にも関連した内容だったので、就職の際に経験や実績として示すことができると考えた。また、交流を通して人脈を広げることができた。」などのコメントがあった。

これらのことから、参加青年の多くが今後も継続して中国との交流を持ちたいと考えており、中国と関わっていく上で、本事業を良いスタートにすることができたと感じているのであろう。併せて本事業で得た人脈に対して大きな価値を見出しており、彼らの飛躍を後押しする人的ネットワーク形成の一助にもなったと伺える。

以上のように中国に対する造詣を深めることや、中国参加青年と意見交換で得た自信に対して高い満足度を感じている趣旨のコメントが多く、本事業の目的である「日本と中国の相互の友好と理解の促進」は、達成できたと考えられる。今年度も今後の日中関係発展に寄与することが期待できる青年を多く輩出できたことから、本事業の目的を十分に果たすことができたと評価できよう。

内閣府青年国際交流事業報告書2022

令和4年度

日本・韓国青年親善交流事業「日韓青年親善交流のつどいオンライン」

日本・中国青年親善交流事業「日中代表ユースフォーラム」

---

発行 内閣府

住所:〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1

中央合同庁舎第8号館

TEL: 03-6257-1436

FAX: 03-3581-1609

URL: <https://www.cao.go.jp/koryu>

編集 一般財団法人 青少年国際交流推進センター

住所:〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767

FAX: 03-3639-2436

URL: <http://www.centerye.org>

印刷 株式会社 長正社